

平成30年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	神経・免疫・代謝におけるガイダンス因子の病的意義の解明とその制御
研究代表者	熊ノ郷 淳 (大阪大学・大学院医学系研究科・教授) ※平成30年7月末現在
研究期間	平成30年度～平成34年度
コメント	<p>本研究は、セマフォリン分子群を手掛かりとして、神経・免疫・代謝の相互関連の分子機構と病的意義の解明を目指すものである。神経・免疫・代謝を統合的に解析する点に大きな意義がある。</p> <p>応募者らは、遺伝子操作マウスを用いた検討を中心に、神経・免疫・代謝の相互関連に関する多くの予備データが得られており、本研究に対する準備状況も十分である。</p> <p>また、応募者はセマフォリン研究の第一人者として世界的にも関連研究を先導しており、本研究においてこれまでの研究活動を発展させることにより、大きな研究成果が期待できる。</p>